

# レンガ坂(多摩センター地区)における自転車歩行者専用道路の 自転車通行のあり方社会実験



高橋 敬宗 NIX JAPAN株式会社

## 1. 背景と目的

### 自転車と歩行者の通行のあり方が議論に

多摩センター地区は、多摩ニュータウンのセンター地区として約45年前に開発されており、ペDESTリアンデッキの設置など、**歩車分離の思想が重要なコンセプト**として採用されている。本思想の下に設置された自転車歩行者専用道路(レンガ坂)について、施設老朽化等への対応として再整備を実施することになったが、その中で**自転車通行のあり方が議論**となった。そのため今回社会実験を行い、そのあり方を検証することになった。



改修後のレンガ坂

## 2. プロジェクトの内容

### 通行区分の適正化を社会実験で検証

令和6年度の社会実験では、再整備されたレンガ坂において、自転車通行のあり方のパターンを二つに分けて実施した。なお、2回の社会実験ともに道路脇の施設等にカメラを設置して、その動画を基にAIシステムによりゾーン別の通行量や速度の計測を行った。

- ・1回目(R6年10月)は、歩行者通行帯及び自転車通行帯について明確に線を引くことにより区分して実施
- ・2回目(R7年3月)は、**自転車歩行者専用道路全体を歩行者優先**として、明確に線で区分することなく、自転車通行帯のみを路面表示等により示して実施

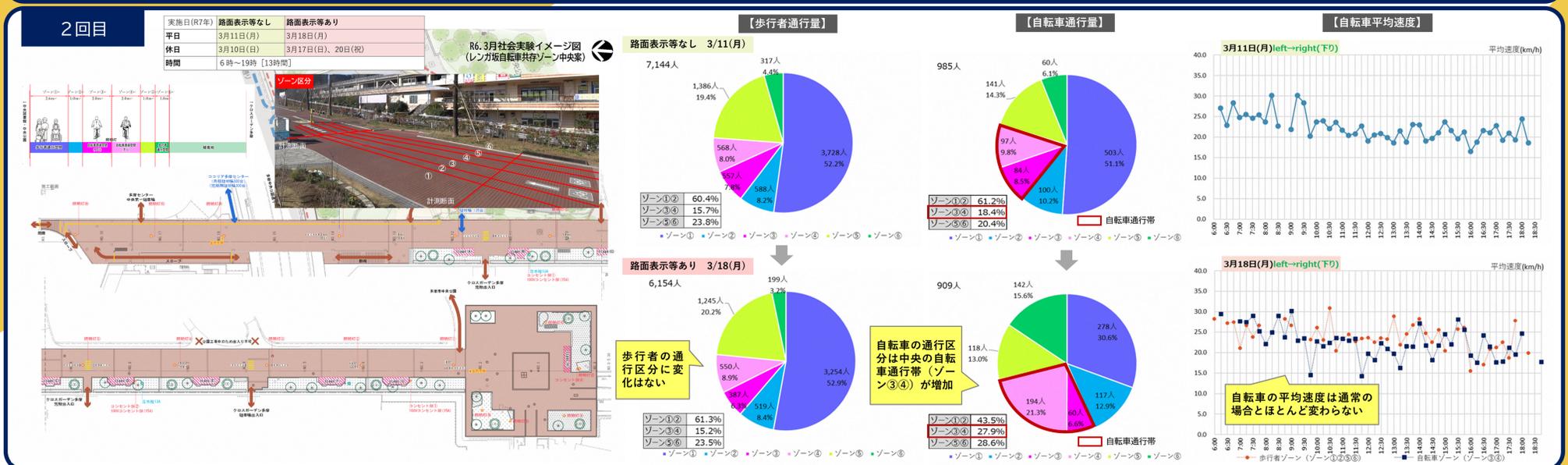


1回目



2回目

社会実験の通行区分表示(左:ゾーン区分 右:路面表示等)

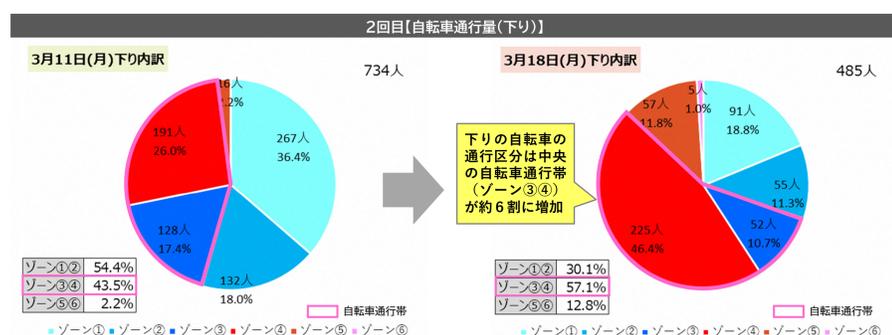


## 3. 効果

### 歩行者優先の下で自転車を中央帯に誘導

1回目では自転車通行帯を明確に区分していることから、自転車の通行位置を中央帯にまとめることが出来たが、自転車が専用帯のように直線的に通行しており、また道路全体に対する圧迫感があり、**歩行者からは安全性に懸念**があるなどの声があった。

そのため1回目の検証結果を踏まえて、2回目の社会実験を実施したところ、歩行者は通常どおり通行する中で、多くの自転車が中央帯を通行(特に下りにおいて増加)しており、また速度も通常の場合と変わらなかった。そのため**歩行者からも評価**され、一定程度の効果が認められた。



## 4. 結論

### 社会実験結果に基づく暫定運用の開始

今回の社会実験の結果より、自転車歩行者専用道路全体は**歩行者優先の考え方**の下で、**路面表示等により自転車を中央帯に概ね誘導**することが出来たことから、多摩市では説明会等による事前周知を行った上で、令和7年3月末より道路上に路面表示のペイントを行い、**暫定運用**を行っている。現在は、隣接している多摩中央公園のリニューアル整備が完了して、令和7年4月より開園していることから、それによる人流の変化等を見ながら、暫定運用の状況を確認しているところである。

#### 暫定運用 レンガ坂 ~安全な通行のあり方~

**●自転車の通行のあり方**  
レンガ坂は歩行者優先の道路です。自転車の安全な通行の在り方については、歩行者と接触すると重大な事故に繋がりますので、歩行者との接触を避けるために中央寄りを行って下さい。

**●歩行者の通行のあり方**  
歩行者には、レンガ坂の通行方法に制限を設けるものではありません。なお、遊ぶときは公園をご利用いただくなど、通行の支障となりませんようお願いいたします。

**●暫定運用のその他のこと**  
暫定運用につきましては、一定の効果を得て本運用へ移行することを目標としておりますが、時間をかけて皆様にご理解いただくとともに、周辺の土地利用や人流の変化に応じて検討してまいります。

**●検討の経過**  
平成30年度 通行に関する社会実験  
令和2年度 オープンハウス(市民参加型・事業説明会)  
令和3年度 市民参加型 説明会(市民参加型)  
令和4年度 通行状況の調査、アンケート  
令和5年度 通行に関する社会実験、アンケート  
令和6年度 暫定運用に関する説明会

**Q. 通行位置はどのような考えに基づいているのか**  
A. 自転車の通行位置につきましては、周辺部から出入りする歩行者の歩行帯を考慮し、周辺部から歩行者の歩行帯を確保するために、中央寄りに通行位置を設定いたしました。このため、レンガ坂の両端は比較的安全な歩行帯となります。歩行者についても、レンガ坂全体が歩行者優先であるため、自転車の通行帯を確保いたします。

【お問い合わせ先】多摩市都市整備課交通連携 042-338-6859



暫定運用中の様子

暫定運用周知ポスター